

春しゅん火か

春のやわらかな陽射しだけにとらわれず、春の景色、春を感じる気配や様子のこと。
畑の脇にも、足元には小さな花たち。虫や動物たちもイキイキ。



春めく京都。色鮮やかな景色とは言えない畑では、基礎の土づくりから始まる耕起や定植作業を一気に進めています。初夏には爽やかな緑色のねぎ畑が広がることを望んで。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

この季節を待ち望んで仕上がった春葱たち

4月にお届けする春葱は、昨年10月に市内・亀岡の畑で定植を行い、年末からの寒さにも耐えて越冬したねぎたち。

私たちが春の訪れを喜ぶように、定植してからようやく迎えた収穫の時期を待ち望んでいた春葱です。今年の2月は比較的気温の低い日も多く、畑のねぎたちもなかなか伸びてくれず農人たちも苦慮していました。3月に入り、やっと気温の高い日も増えてきて、収穫前に仕上がりました。冬の名残で厚みがありながらも柔らかな食感、風味の良さをご賞味下さい。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信



底冷えの寒さから移り変わる季節へ

3月に入り京都市内以外の亀岡・美山・丹後の各産地でも、7月の収穫に向けた作付け作業が始まりました。定期的に雨の降る日も多く、毎日天気予報とにらめっこ。気温のアップダウンで体調を崩さないよう体調管理にも気をつけつつ、農人たちは作付け予定達成を目指しました。夏のメイン産地の一つである丹後園場は、3月下旬まで雪が吹雪く地域。土が乾かないとトラクターで耕せず、いざやってみると乾きが不十分であったり、晴れを祈ったりとヤキモキもしました。

苗づくりについて、これまでほとんどが美山の育苗ハウスで管理栽培を行っていましたが、今年からは京丹後でも丹後で使用する分については種まきから定植までの管理を行っていく予定となりました。苗づくりの環境も変わり、まだまだ初めてのことも多いので、良い苗づくりを行っていただければと思っています。

とある日の農人日記。

マルチの回収作業中。畝間の草の根が強く張っていて苦戦していましたが、そんな中でも実習生たちは元気に作業を行っていました。自然と、こちらも元気になりました。（亀岡・甲斐）



古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.215

2025年4月号

TEL: 075-601-0668



こと京都は「野菜を食べてよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。